

博修士会会報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2006年7月1日発行



ごあいさつ

関西大学博修士会会長

天井 一夫

7月に入り、梅雨明けの待ち遠しい季節となりました。関西大学博修士会会員の皆様には、益々ご健勝にて各地、各界でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会の運営につきまして温かいご助言、特別協力金のご寄付など格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

博修士会は、本年で創立54年目となりましたが、皆様ご存知のごとく母校関西大学は、創立120周年を迎えています。今秋10月ならびに11月には千里山のキャンパスで、盛大な記念式典の開催が予定されています。

さて、去る3月23日の大学院学位記（修士）授与式において、617名の院生諸君に対して修士の学位が授与されました。このうち、平成16年4月に開設された法科大学院の専門職課程を修了し学位記を授与された院生が51名居られます。

また、去る4月3日の大学院入学式では、法学研究科

はじめ8研究科で博士課程前期課程600名、同後期課程75名、計675名、専門職課程では、法科大学院137名と今春から開講された会計専門職大学院70名を合わせて207名、総計882名の院生諸君が入学されました。本学大学院は、私学としては相当大規模なものになっています。

来る7月22日には、博修士会総会を開催致します。

博修士会会員の皆様には、是非、年一度の本会総会にご出席して頂き、この機会に母校の目覚ましい発展ぶりをご覧頂きたいと存じます。

本年度の博修士会総会は、役員改選期でもあり、役員改選その他重要議題が用意されています。本会は、財政基盤の確立、事業活動の活性化等いろいろな問題を抱えていますが、逐次その対策に取り組んでいます。

本年度の総会は、会場を新しい総合学生会館「凜風館」に移して催します。また、寺内俊太郎氏の有益な講演を拝聴できること等、話題豊富なものになることと存じます。

会員の皆様には、公私とも大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非、来る7月22日（土）の平成18年度博修士会総会にご出席下さいませよう、心よりお待ち申し上げて居ります。

平成18年度 博修士会 総会・講演会・懇親会のご案内

講師▶

- 日時：平成18年7月22日（土）13：30より受付開始
 場所：関西大学千里山キャンパス・凜風館4階・ミーティングルーム（凜風館は、工学部学舎と誠之館との間に建設されています。）
 内容：第1部 総会 14：00～15：20
 第2部 学術講演会 15：30～16：30
 演題：「新しい金属部品製造技術（MIM）のタイ王国への技術移転について」
 講師：大阪冶金工業代表取締役社長 寺内 俊太郎 氏
 第3部 懇親会 17：00～18：30（100周年記念会館内：桃源）
 会費：会員 5,000円、院生会員 無料、院生非会員 聴講無料（但し、懇親会参加費 3,000円）、一般の方 聴講料無料

寺内 俊太郎 氏



ご出席の方は、7月18日（火）までに、下記のいずれかの方法で事前にお申し込み下さい。

- FAX 総務部 中原：06-6388-8785
- E-mail nakahara@ipcku.kansai-u.ac.jp
- はがき 〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学大学院 気付 博修士会
- 問い合わせ先 06-6368-0810



Kansai University 120th
Anniversary
～since 1886～

関西大学はいよいよ本年11月4日創立120周年を迎えます！

関西大学博修士会会員の皆様のご協力をお願いいたします。

この節目の年を「21世紀型総合学園」へと成熟・飛翔していく好機と捉え、「強い関西大学」を築いてまいります。

関西大学創立120周年記念事業局 記念事業・募金事務室

TEL:06(6368)1137 FAX:06(6388)1148

会員からのメッセージ



「この三年間を 振り返って」

台湾・静宜大学 曾煥棋 (平15博文)

2003年3月に母校の関西大学で学位を取得し台湾に帰国してから、あっという間に三年が経ちました。振り返ってみれば、この期間の変化は実に大きい。楽しみも多くありましたが、悲しみもありました。

まず、学位を取得できたおかげで帰国してほどなく台湾中部にある、歴史の古いカトリック系の静宜大学の教職を得ました。静宜大は、学生数が約1万1000人あり、中規模の大学です。台湾の国際港の台中港の近くにあり、緑に囲まれた美しい大度山麓に位置しています。地名からもわかるように、台中は台湾の中部にあり、台湾で気候が一番よくて住みよいところです。放課後、私はよくキャンパスの奥にある学校の坂道を上って、そこから台中港を見下ろし、台湾海峡のサンセットを眺めます。これは人生の最大の楽しみの一つです。

2004年6月に、はからずも日本語学科の学科主任になりました。専任教員がほとんど日本の国立大出身者の静宜大日本語学科の中で、関大出身の私が選ばれたのは、個人の光栄だけでなく母校の誇りになるとも思っています。母校の河田学長や先生方のサポートのおかげで、2005年5月に静宜大と関大との間に姉妹校協定が結ばれました。去年の9月に静宜大から2名、今年の3月に関大から1名の交換留学が実施されました。来年より関大が10名の交換留学生を静宜大に送ることが決定しました。また、関大が静宜大に多くの図書を寄贈して下さいました。去年3月に関大経済学部の石田浩先生、10月に文学部の松浦章先生が静宜大で公開講演をして下さいました。両大学の交流はこのように深まってきました。

台湾では数十名のメンバーを擁する関大OB会があって、毎月会食やゴルフ試合などを行って

ます。いつも台北で行われるので、これまであまり参加できませんでしたが、忘年会や新年会のときは、かならず出席するようにしています。関大OBの多くは日系企業の重役や会社の経営者として各業界で活躍されています。OB会員の間の経験交換や在学時の昔話などは非常に面白くて有意義なもので、その会に出る楽しみの一つです。

三年来、最も悲しいことは、母校の経済学部の石田浩先生のご逝去です。2005年10月に台湾の政治大学の客員教授として來台した石田浩先生は、何度も私の勤めている静宜大まで足を運んで下さいました。石田先生とは中国語で「亦師亦友」という、学問上の師でもあり、また共に学んだ友人という間柄でもあります。去年のクリスマスの夜、台北のレストランで一緒に食事をしたばかりなのに、わずか数日後に、先生が他界されたのは本当に信じられませんでした。石田先生のご急逝は、いまだに私にとって大きなショックで悲しくてたまりません。私に「人生は無常」と思わせる出来事でした。

母校や先生方のご恩に報いるためにも、これからいっそう自分の職場で頑張り、台日両国の掛け橋になりたいと思っております。

「大学院と私そして夢」

工学研究科博士課程前期課程

新入生総代 草部 真理子

一年前の今頃、リクルートスーツに身を包み、就職活動を始めた当初は、まだ研究室配属もされておらず、研究室での研究活動がどんなものなのかわかりませんでした。私の頭の中には、就職した企業で研究開発がやりたいという気持ちはあったものの、大学院へ進学するという考えはありませんでした。

しかし、研究室に配属され、院生の活動を見ることにより院での生活がわかり始めました。また就職活動を進めていく中で、企業が求める人間像がわかり始め、大学院へ進学したいという気持ち

が大きくなっていきました。

というのは、企業が研究開発を行なうにあたって求めているのは、新しい商品を開発するためには何をしたらよいのかを、自分で資料や文献を検索したり、実験を行なってみるなど、自ら考え動ける人間だとわかったからです。学会発表、先生とのディスカッション、雑誌や研究書の輪読会などを見て、知識はもちろんのこと、研究活動に対する取り組み方に院生と自分との差を感じました。そして、自分も将来研究開発という職種に就くのであれば、進学した方が絶対に良いと思いました。また、研究活動に面白さを感じていったことも進学したいと思った理由の一つです。

実際、一年間研究室での生活をおくった今、大学院への進学を決めて本当によかったと感じています。この一年間は大学四年間の生活の中で最も充実した一年になったといっても過言ではありません。これは先生のすばらしいご指導はもとより、色々お世話になった院生の方々や相談のってくれた学部生の皆さんのおかげだと思っています。

たとえば実験、先生や院生とのディスカッション、輪読、週末レポートなどの日々の研究生活、中間と最終の発表会、卒論提出など、様々な経験を積むことができました。また、三月に行なった日本セラミックス協会の年会での発表を準備するに際し、実験データが思うように出ず大変苦労しましたが、その分自分が成長できたのではないかと考えています。

さて、大学院での生活が始まりましたが、この二年間で授業や研究活動、また、学会発表などを

通じて、さらに多くの経験を積み、多くの人と出会い、多くの知識を身につけることによって、大きく成長していきたいと考えています。そして、院を修了す

るころには、企業が求めるような自ら考え動ける人間になっていきたいです。また、自分が研究室に入ってきた時に院生に感じたような感情を同じように学部生に与えられたらいいなと思っています。

「研究を教育に活かして」

玉城 陽子 (平18修経)

私が大学院への進学を決めたのは突然のことでした。関西大学に入学したころには将来、教職に就きたいと決めていた私ですが、高校教員の募集は少なく進路が決まらないまま4回生の年越しを迎えました。教員になりたいと思い始めた頃からこの状況は覚悟していましたが焦りはあまり感じていませんでした。歴史好きで経済史の分野のゼミを専攻していたので、時間があるのならもう少し勉強を続けたいと大学院の2月入試を目前に受験を決めたのでした。

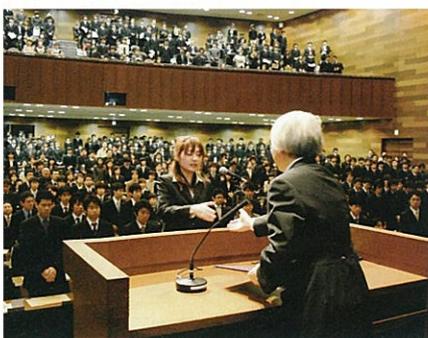
勉強不足に不安がありましたが、合格通知と同時にもうひとつ高校非常勤講師採用のうれしい知らせが届きました。一瞬どちらかを選ぶべきかと迷いましたが、せっかくのチャンスを無駄にしない、「二足のわらじ」に挑戦することにしたのです。

大学院生としての1年目から学会などにも出席させて頂く機会を得て、多くの先生方からアドバイスや刺激を与えて頂いたことは仕事との両立を図る上でも貴重な経験でした。一方、講師としても憧れの教壇にたてることのうれしさで毎日が過ぎていきましたが、通信制高校での勤務のためレポートの添削にかかる時間は膨大で、大学院の課題提出や発表の日程と重なりどちらから手をつけるべきか悩むほどでした。

2年目になると専任の教員として採用されるこ



修了式、恩師とともに



大学院入学式

となり、このときも修士論文を書く時間のことを考えると話を受けるかどうか非常に悩みましたが、どちらも自分の好きなことのため一方を選ぶことは出来ず、やはりやれるところまでやってみようと思ったのです。しかし、修士論文のための課題提出に割くことの出来る時間はますます減ってしまい、相変わらずレポート添削の仕事に追われながら、いつも期限ギリギリでゼミでの発表を迎えていたのです。

修士論文で最も苦労したのは資料集めの時間を捻出することでした。テーマは経済と学校教育を組み合わせたものにしようという早い段階から決まっていたのですが、仕事が重なって本格的に資料収集が行えたのは8月後半になってからでした。限られた休みを利用し、日ごろ指導教授の「歴史研究は刑事の仕事と同じ。まず証拠を固めること」というアドバイスにより、研究対象の近畿の多くの図書館で資料探しに奔走しました。

大学院在籍中の2年は本当にあっという間でしたが、物事を深く考えるための方法を学び、修得する機会を与えてもらった貴重な時間でした。修士論文の作成は仕事との両立を暖かく見守ってくださった指導教授の浜野潔先生をはじめとして学部ゼミの北原聡先生、講義を通じてお世話になった先生など多くの先生方からのアドバイスのおかげで無事に完成させることが出来たと思っております。誌面をお借りして感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

「二年間」

水田 敦士 (平18法科)

「①既に死んでしまった人を山に捨ててきた。②まだ生きている人を山に捨ててきた。さて、罪が重いのはどっちか？」個性ある弁護士が出演しているラーメン屋の名前のような某テレビ番組のネタにもなりそうな質問をロースクールの同学年の友人たちに聞いたことがある。

答えは様々だったが、①（保護責任者を除く）

が正解。①は、死体遺棄罪として、1年以上3年以下の範囲で懲役に処せられ、②は、単純遺棄罪として1年以上1年以下の範囲で懲役に処せられる。死人を捨てるより、生きて

いる人を捨てた方が罪が軽いということは、保護法益が同じだとしたら説明がつかない。そこで、死体遺棄罪の保護法益が、死者に対する敬虔感情という社会法益であるのに対して、単純遺棄罪のそれは、人の生命・身体という個人法益であるからだと考えれば一応説明がつく。

このことは、「死んだと思って山に捨ててきたが、実は生きていた。その人に単純遺棄罪の犯意はあるか」という場面で実際問題になり、通説からは、「このような保護法益の違いから両罪には重なり合いがないから、単純遺棄罪の犯意を問うのは無理でしょう」という解答が示されるのである。

法律を学ぶ者にとっては、なんでもない当たり前の話で恐縮であるが、「法の理屈」の簡単な一例である。ロースクールは、司法研修所の民営化の一環として設立された代替機関であるため、画一的に実務の基礎理論を身につけることが要請される。そうであっても、「法の読み方」「法的思考」「法のプロセス」といった「法の理屈」は、いつの時代においても実務の根本を支えるものである。

「法」学の目標は、いうまでもなく、法律を議論する、説得する、合意する能力の鍛錬であり、ロースクールの目標でもある。そして、その能力の鍛錬は、学習から勉強、そして、学問の各段階を経る。

すなわち、まず、体系書から著者の思考過程を辿り、仮説を獲得する「学習」の段階。次に、論点と異説を知り、著者の主張の当否を思考すると



修了式後、学友とともに（前右が筆者）

いう仮説を検証する「勉強」の段階。最後に、己はどう解答するのかという仮説から応用力のある自説の獲得という「学問」の段階。

他人を真似る（「学習」の段階）ことは誰でもできるし、決して悪いことではない。しかし、当初から「学習」「勉強」に甘んじるつもりでいると、本当の「勉強」にはならない。より上を目指す気持ちがあつてこそ、一歩の違いがある。

関西大学ロースクールは、この一歩の違いを、実務の観点を織り交ぜて、発見させてくれた。是非、実務に活かしていきたいと思っている。

短い2年間であったが、知らなかったことの発見の連続で、毎日が充実していたと思う。諸先生方のご指導とご鞭撻に重ねてお礼申しあげたい。



「博論への道のり」

宮田 和子（平18博文）

このたび中文課程の博士号をいただくことができました。念願かなって夢のようだと続くのならまともかもしれませんが、さにあらず、大学という巨大組織の後ろ盾がなくなって、これからどうしようと茫然としているのが実状です。

ふたりの子供が結婚して家を離れると、私もなにかやりたくなくなり、当時はやりの朝日カルチャーセンターの日本語教師養成講座に入りました。

ここでの白眉はJ先生の講義でした。日本語の音声テーマで、最後に研究課題がです。まともに頭をしぼっても歯が立たない難問が6題、最後の7題目が待望の自由課題で、ことば遊びを題材とした未発表作品を提出せよ、というものでした。当時の“作品”から一つご紹介します。

箸の端で橋の端をつついて 橋の端をわたる
はっこい子は橋の端の子（関西風に）

創立まもない放送大学に入って、遅ればせながら研究のまねごとを始めました。

高名凱と劉正燦の共著『現代漢語外来詞研究』（1958年2月刊行）は、さねとう・けいしゅう著『増補中国人日本留学史』第7章に詳しく紹介された外来語分野での先駆的業績です。指導にあられたF先生のお勧めもあって、この著作の第3章第5節「日語来源的現代漢語外来詞」（日本語起源の外来語）の第1項で純粋の日本語としてあげている91語を、卒論の研究対象に選びました。

しばらく間をおいて平成5年、国際基督教大学（ICU）大学院比較文化研究科の博士前期課程に入学し、すったもんだのあげく修了にこぎつけはしたものの、修論の提出期限に間にあわせようと複写をてつだってくれた主人が、まもなく脳の中枢をつかさどる橋部の出血で急逝してしまいました。

国会図書館と東洋文庫に保管された英華辞典のデータをもとに、延べ約300図書館におよぶ文字通りの全国調査を、費用も含めて私が担当した『十九世紀の英華・華英辞典目録』は、当時の指導教官のH先生との共著として、平成9年に明治書院から刊行されました。

関大の博士課程に入る前に書いた論文がいくつかありました。書いた当時は新説であっても、書いた本人にしてみれば、書いてしまえばそれなりけり、ほんとにこれでいいのかなという不安がつきまといま。生涯教育という錦の御旗を乱用(?)して入りこんだ老人の博論指導とは、先生方も難儀なこととご同情申しあげるほかに、審査にあられた日下先生、内田先生、沈先生には叩頭して謝意を表したいと思います。

活字もバラバラ、体裁もいきあたりばったりの論文をドッキングさせるのは私にとっては至難のわざでした。氷野さんの苦心の調整がなかったら、博論の提出じたいムリだったにちがひありません。院生の方々、あらためてご協力ありがとうございました。

総会議案書



〈第1号議案〉

平成17年度事業報告

平成17年4月 1日から
平成18年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

開催日時：平成17年7月30日（土）14：00～

開催場所：千里山キャンパス（尚文館501教室）

来賓：竹下 賢 関西大学副学長
寺内 俊太郎 関西大学校友会副会長
成岡 昭二 関西大学校友会事務局次長

◇第1部 総会（議事）（501教室に於いて）

- (1) 平成16年度事業報告
- (2) 平成16年度決算および監査報告
- (3) 平成17年度一般会計収支予算案
- (4) 博修士会会則改正

◇第2部 学術講演会（501教室に於いて）

演題 「アカウンティング・スクールの開校に向けて」
講師 関西大学商学部教授 柴 健次 先生

◇第3部 懇親会（新関西大学会館・ボン・プラットフォーム）

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- 平成18年3月23日（木）14：30～
関西大学千里山キャンパス・
学術フロンティアセンター3階会議室（先端科学技術推進機構：
第4学舎横）（総会・学術講演会・入会勧誘手続き・会報発行・
役員改選の件等）

◇常任理事会

- 平成17年5月9日（月）18：00～
関西大学100周年記念会館内「桃源」
（総会・決算・予算の件その他）
- 平成18年2月25日（土）15：00～
関西大学「ボン・プラットフォーム」
（入会案内、入会受付手続き・修了者名簿・記念写真撮影・謝
恩祝賀会に関する件等）

◇その他

- (1) 平成17年4月3日（日）
 - '05スプリングフェスティバル（於千里山キャンパス）に参加
（渉外部）
- (2) 平成17年6月4日（土）
 - 校友会第85回定例代議員会（於100周年記念会館）に出席（会
長コーナー・渉外部）
- (3) 平成17年6月20日（月）
 - 「博修士会会報」を編集・発行（広報部）
- (4) 平成17年9月10日（土）
 - 校友会全国組織代表者会議（於100周年記念会館）に出席（会
長コーナー・渉外部）
- (5) 平成17年10月16日（日）
 - 校友会総会（於BIGホール100）に出席（全部署）
- (6) 平成18年1月14日（土）
 - 校友会新年互礼会（於新阪急ホテル）に出席（会長コーナー）
- (7) 平成18年1月28日（土）
 - 校友会臨時代議員会（於100周年記念会館）に出席（会長コー
ナー）
- (8) 平成18年3月23日（木）
 - 学位記及び博士課程後期課程単位修得証書授与式に出席（会
長コーナー）
 - 新会員の入会受付（渉外部・財務部）
 - 記念写真撮影（渉外部・事業部）

〈第2号議案〉

平成17年度収支決算報告書

平成17年度一般会計収支決算書

自 平成17年4月 1日

至 平成18年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項 目	予算額	実行額	比較増減
経 常 収 入	850,010	859,005	8,995
1. 会 費 収 入	420,000	356,000	△64,000
① 入 会 金	60,000	44,000	△16,000
② 院 生 会 費	360,000	312,000	△48,000
2. 事 業 収 入	200,000	200,000	0
① 総 会 会 費	200,000	200,000	0
② 広 告 料	0	0	0
3. 雑 収 入 等	230,010	303,005	72,995
① 雑 収 入	30,000	30,000	0
② 特 別 協 力 金	200,000	273,000	73,000
③ 受 取 利 息	10	5	△5
繰 越 金	293,002	293,002	0
① 前 期 繰 越 金	293,002	293,002	0
合 計	1,143,012	1,152,007	8,995

(支出の部)

項 目	予算額	実行額	比較増減
経 常 支 出	845,000	625,229	△219,771
1. 一 般 管 理 費	205,000	88,285	△116,715
① 通 信 費	95,000	29,920	△65,080
② 事務用消耗品費	70,000	38,895	△31,105
③ 支 払 手 数 料	10,000	7,470	△2,530
④ 雑 費	30,000	12,000	△18,000
2. 会 議 費	250,000	166,900	△83,100
① 総 会 費	200,000	146,050	△53,950
② 謝 恩 会 費	0	0	0
③ 諸 会 議 費	50,000	20,850	△29,150
3. 事 業 費	390,000	370,044	△19,956
① 印 刷 費	200,000	237,484	37,484
② 修 士 記 収 納 ケ ー ス 費	150,000	0	△150,000
③ 修 士 記 授 与 記 念 写 真 費	40,000	132,560	92,560
④ 名 簿 特 別 勘 定 繰 入	0	0	0
予 備 支 出	0	0	0
① 予 備 費	0	0	0
合 計	845,000	625,229	△219,771

(剰余金の部)

次 期 繰 越 金	298,012	526,778	228,766
-----------	---------	---------	---------

※ 予備費の支出は、役員会の承認を得たものとする。

総会議案書

平成 17 年度 特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成 17 年 4 月 1 日
至 平成 18 年 3 月 31 日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,199,231	次期繰越金	1,199,241
受取利息	10		
合計	1,199,241	合計	1,199,241

名簿特別勘定

自 平成 17 年 4 月 1 日
至 平成 18 年 3 月 31 日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	849,513	次期繰越金	849,521
名簿売却収入	0		
本会計より入金	0		
受取利息	8		
合計	849,521	合計	849,521

財産目録

平成 18 年 3 月 31 日現在

(資産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268180	211,031
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268206	1,199,241
普通預金	りそな銀行難波支店 No.6268194	849,521
郵便振替口座	00900-2-68733	304,630
通常貯金	14160-93310081	11,117
未収入金		0
合計		2,575,540

(負債の部)

科目	摘要	金額
未払金	該当事項なし	0
合計		0
差引正味財産	次期繰越金合計	2,575,540

監査報告書

私たちは、平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金ならびに名簿特別勘定の特別会計収支決算書および財産目録につき監査を実施した。

その結果、上記決算書類は、適正なものであることを認める。

平成 18 年 6 月 10 日

監事 沢 勲
同 竿 田 嗣 夫
同 水 野 一 郎

〈第 3 号議案〉

平成 18 年度一般会計収支予算書 (案)

自 平成 18 年 4 月 1 日
至 平成 19 年 3 月 31 日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常収入	930,010	
1. 会費収入	420,000	
① 入会金	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
② 院生会費	360,000	院生会員入会見込 12,000円×30人
2. 事業収入	210,000	
① 総会会費	150,000	総会出席見込 5,000円×30人
② 広告料	60,000	
3. 雑収入等	300,010	
① 雑収入	50,000	
② 特別協力金	250,000	
③ 受取利息	10	預金利息等
繰越金	526,778	
① 前期繰越金	526,778	
合計	1,456,788	

(支出の部)

項目	予算額	摘要
経常支出	900,000	
1. 一般管理費	165,000	
① 通信費	65,000	会報・写真等郵送料
② 事務用消耗品費	60,000	名簿作成コピー代等
③ 支払手数料	10,000	振込手数料
④ 雑費	30,000	
2. 会議費	300,000	
① 総会費	250,000	総会会場費
② 諸会議費	50,000	
3. 事業費	435,000	
① 印刷費	300,000	会報・総会案内等印刷費
② 記念品費	85,000	
③ 修士記収納 ケース費	0	
④ 修士記授与 記念写真費	50,000	
予備支出	50,000	
① 予備費	50,000	
当期支出合計	950,000	
繰越金	506,788	
① 次期繰越金	506,788	
合計	1,456,788	

〈第 4 号議案〉

役員改選について

〈第 5 号議案〉

その他

柴健次商学部教授が講演



講演する柴健次教授

博修士会（天井一夫会長）の17年度総会が、7月30日に千里山キャンパスの尚文館で開催された。来賓として竹下賢副学長、寺内俊太郎校友会副会長らを迎え、北嶋弘一

会長代理の開会の辞の後、天井会長が挨拶をした。

その後、竹下副学長が、「今日、修士課程は高度専門職業人の養成、教員のリカレント教育というように人材養成の面で多様なものとなっており、今後ますます重要なものとなっていく」と述べられた。また、寺内副会長は、「博修士会は、今後学術面でも社会貢献の面でもリーダーシップを発揮してもらいたい」と希望を述べられた。議事では事業・決算報告や予算案、ならびに会則改正の全てが承認された。

学術講演会は、柴健次商学部教授（アカウンティング・スクール・ワーキンググループリーダー）が「アカウンティング・スクールの開校に向けて」のテーマで講演。平成17年4月に本学でも開校予定の会計専門職大学院が今日必要とされるに至った背景を、戦後の会計の歴史を踏まえながら説明された。また関西大学のアカウンティング・スクールの魅力・特徴にも言及され、最後に、多くの校友のご子息・ご子女に受験してもらいたいとしめくくられた。

学術講演会の後は、ボン・プラットで懇親会が行われ、会員相互の一層の親睦をはかった。

（広報部 明神 信夫）

新修士617人誕生



学位記を授与する河田学長

大学院の学位（修士・専門職）記授与式が3月23日の10時からBIGホール100で行われ、新たに8研究科566名の修士と法務研究科51名の法務博士（専門職）が誕生した。

都合617名の学位記取得者に向かって河田第一学長は、次のような式辞を述べた。すなわち、今後の知識基盤社会の中で関大修士としての自覚と誇りをもって活躍すると同時に、品格ある健全な市民として生き抜いて欲しい、と。それに応じて修了生総代の宮原朋子さん（社会学研究科）が、大学院で学んだことをもって社会に貢献できるよう頑張っていきたい、との決意を表明した。

式終了後、出席者全員が屋外に出て第2学舎2号館4階からの鳥瞰写真に収まった。その光景は、まことに和気藹々としたものであった。

また、同日13時から関大会館4階の大集会室で、学位（博士）記授与式が挙行された。全部で49名の対象者の1人ひとりに証書を手渡したあと学長は、改めて祝辞を述べた。続いて、日刊諸新聞にも紹介された75歳の宮田和子さん（文学研究科）と本学商学部の廣瀬幹好教授が、それぞれ、29名の課程博士と20名の論文博士を代表して、感慨をこめながら挨拶した。最後に記念撮影をして、式全体を締めくくった。

（広報部 小池 渺）

特別協力金納入者名簿（五十音順、敬称略）

天井 一夫	石川 昌司	井上 功	岩崎 利彦
江原 静	大前 英世	岡村 達郎	岡本 哲和
緒方 正則	北川 勝彦	北川 均	北嶋 弘一
北村 英子	黒田 英利	小松陽一郎	佐々木保幸
沢 勲	鹿田 幸治	鈴木 一成	鈴木 直行
住友 誠	中下 寛治	中原 住雄	長濱 治男
西川 俊輔	西崎 義男	西田 一郎	畠山 正志
羽間 弘	早川 貞幸	平野 裕	藤井 英志
藤井 収	藤井 昭三	正木 明	松田 充弘
宮内 勉	明神 信夫	守谷 基明	山内 紀嗣
山口 哲史	山本 善章	吉村 耕治	

合計 273,000円 43名（平成18年3月31日現在）

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。

1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

お知らせ!

ホームページも見て下さい!

URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2006年号

発行人 天井 一夫 / 編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内